

平成23年度 学校評価実施報告書

学校番号 9

学校名 千葉県立千葉北高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	①HPを中学生を対象とした内容にリニューアルし、更新の手続きの確認を行ったが、定期的な更新はできていない。 ②学力の向上にむけ、具体策を検討している。 ③学校評価目標や結果を職員会議で報告し、開かれた学校づくり委員会で検討を行った。	①定期的に更新を行う必要がある。中学生から見た評価を得る必要がある。 ②学力の向上に向けた具体策を実施していく。 ③結果や課題、重点目標、具体策等を学校全体で共有し取り組む必要がある。学校評価アンケートだけでは得られない情報の把握が必要である。
学習指導	①年間計画に基づいて、研究授業や公開授業を実施し、教員や保護者等が参観でき、互いに良い刺激となり、授業改善に結びついた。 ②2・3年次の科目選択において、将来の希望に結びつく説明・選択・決定を行うことができた。 ③授業評価アンケートでは、昨年度に比べ、教員指導は授業改善、学習指導の創意工夫、きめ細かい指導など改善傾向が見られた。同じように生徒の結果にも反映されていた。しかし、教員と生徒の評価結果にはまだまだ差が見られた。	①今後とも継続し、無理なく互いに良い刺激を受けながら授業改善を行い、授業を展開していく。 ②1・2年次にしっかりと基礎を固め、3年次で多岐にわたる生徒の興味・関心・進路希望に対応した学習指導体制を構築する。 ③引き続き改善に努める。また、保護者・生徒のアンケート結果では、家庭学習の少なさが昨年度と同様に指摘されている。教科担当者だけでなく全体で対策を検討していく。
生徒指導	①遅刻者数については増加傾向がみられ指導徹底がなされなかった。 ②教育相談については、保健室・相談室・学年・担任が連携を取りながら適切に対応ができた。相談の件数も減っている。 ③昨年に引き続き人権侵害とも受け取られかねない軽率な言動が生徒同士の間でみられた。 ④登校指導に加え、スケアード・ストレイト事業の実施により登下校時の生徒の状況に改善傾向がみられた。 ⑤制服の正しい着用指導を展開することにより改善傾向がみられた。	①余裕のある生活を提唱する。(遅刻の多い生徒には、従前どおり早朝登校を課して生活リズムの改善を図る)家庭の事情によることもみられるため家庭との連携を密にしていく。 ②今後とも各担当者との連携を密にしながら生徒の心身の健康育成を図る。 ③自分だけではなく他人の「人権」も考えられるよう「気配り」を提唱する。 ④通学時のマナー向上のために「早めの行動」によるゆとりある生活が送れるよう、早朝登校を提唱する。 ⑤年度当初に家庭にも呼びかけて、指導の徹底を図る。
キャリア教育	①生徒の進路希望実現にむけてよく努力しているという回答は、教職員72%、保護者61%で、昨年同様差が認められた。 ②1学年は年3回(10月進路講演会等)、2学年は年3回(12月上級学校模擬授業等)、3学年は年5回(5月専門学校がイッス、8月推薦入試説明会、9月面接がイッス等)の進路関係行事を実施し成果を上げることができた。 ③各種がイッス等の有効な対策が取られているという回答は、教職員82%、生徒62%と約20%の開きがあった。	①進路に対する保護者への情報提供が不足している事が考えられる。学年保護者会などの場を活用していく。 ②上級学校がイッス等学年をまたいで行われるものは、会場の確保や備品の用意など、綿密に行う。又、3年間の段階的、継続的な指導が行われるよう計画を練り上げていく。 ③生徒はがイッス、外部模擬試験などの重要さにあまり気づいていないので、事前指導と意識づけに重点を置く。
特別活動	①LHRに計画性があると答えた教職員が一昨年度自分と7割程度に復活した。生徒がHR活動での役割を理解できるかという点についても8割程度に回復した。 ②リーダー性・自主性を育成しようとする教職員が昨年度の6割弱から8割と増加した。さらに、クラスがまとまるように心掛けている生徒も7割と増加した。このことから生徒も教職員側もそれぞれの意識が高まったことがみてとれる。 ③各行事への取り組みに関して生徒の8割強、保護者の9割が肯定的な意見であった。また、教職員も9割が参加を肯定しており、この点で認識が共通していることが明らかになった。	①自主性・リーダー性を育成するために、生徒自らが運営する基盤はあるので、HR活動の取り組みに対する教職員の意欲を引き続き一層高めていく。 ②クラスがまとまるように心掛けている生徒の役割が高くなりつつあるので、周囲の状況を理解できる力の育成と自制心の養成の意義について、生徒と教職員がさらに認識を深めるように努めていく。 ③この状態を維持できるように、学校行事に臨む現在の体制の継続及び強化を図っていく。
特色ある教育活動	①総合的な学習の時間は計画的に運営されている。また、「国際理解」の学習について、保護者からは一定の評価を得られた。 ②「国際理解セミナー」の内容についての評価は直後のアンケートでは良く、「文化等の違いがわかって良かった」とあったが、後期(年末)になっての調査ではさほど高くなるはなくなった。 ③10月に授業公開を行い、延べ65人の参加があり、本校に対して良好な評価を得ることができた。	①「国際理解」教育に関して、保護者からは良好な評価を得られたが、生徒からの評価が低いことに鑑み、生徒の興味・関心等を掌握した上で内容のさらなる充実について検討を図っていく。 ②「国際理解セミナー」は今後も継続する。その内容の評価を左右する講師の人選にはさらに工夫を重ねる必要がある。 ③「開かれた学校づくり」の一環として授業公開の評価は高く、その実施方法や実施の周知方法について検討し、今後も来校者の増加に努める。